

TOPICS

MACOUR TOPICS

GP&QCCのボーダー

グランプリ出場枠が18人になって11年目。賞金アップの影響もあり18位のボーダーは7千万円台の過去最高額になった。チャレンジカップ優勝の河合佑樹は開催前の賞金ランク49位からの大逆転劇でGP初出場を決めた。

19位で出場していた佐藤翼は優出条件をクリアしての逆転劇。ちょうどボーダー付近ながらもチャレンジカップがF休みだった3人のうち、15位だった上條暢嵩は何とか踏みとどまり、17位の山口剛と18位の丸野一樹が脱落。チャレ

ンジカップを経て入れ替わったのは2人だけだった。

2ndから出場できる6位争いは最終日の優勝戦前に菊地孝平と平本真之の争いがあり、菊地が平本を上回ったものの、11位だった池田浩二が優勝戦4着で大逆転。池田は2年連続でチャレンジカップ優出により6位以内確保となった。

クイーンズクライマックスの出場権争いは今年も最後の最後までもつれたが、ボーダー(5位守屋美穂のQC不参加で今年は13位)よりも下からは川野芽唯と田口節子の2人だけが優出。2人とも3着以内なら自力当確

という状況で、川野は6号艇ながら最後は平高奈菜を抜いて2着に食い込み16位からの大逆転。田口は2号艇だったが5着と敗れてしまい、大逆転はならなかった。その結果、海野ゆかりが13位に踏みとどまっている。

また、第1回大会から12年連続でフル参戦の寺田千恵はちょうど13位とボーダー上で大会を迎えたが、優出を逃したことで逆転を許し、QC連続出場が途切れてしまった。

表1 18人制以降のグランプリ6位と7位のボーダー賞金額

日程	回	6位	賞金	7位	賞金	賞金差
H26年	29	吉田 拓郎	78,398,000	井口 佳典	72,444,066	595万3934円
H27年	30	毒島 誠	78,438,000	太田 和美	76,405,000	203万3000円
H28年	31	松井 繁	76,181,000	平本 真之	72,389,000	379万2000円
H29年	32	井口 佳典	84,187,000	毒島 誠	80,564,000	362万3000円
H30年	33	守田 俊介	78,293,300	吉川 元浩	74,337,000	395万6300円
R1年	34	瓜生 正義	94,394,000	柳沢 一	88,647,410	574万6590円
R2年	35	寺田 祥	93,799,000	菊地 孝平	91,440,000	235万9000円
R3年	36	白井 英治	95,956,000	前本 泰和	94,112,000	184万4000円
R4年	37	菊地 孝平	86,000,000	白井 英治	83,800,457	219万9543円
R5年	38	池田 浩二	104,658,346	桐生 順平	103,449,000	120万9346円
R6年	39	池田 浩二	102,463,000	菊地 孝平	101,851,000	61万2000円

表2 18人制以降のグランプリのボーダー賞金額

日程	回	18位	賞金	19位	賞金	賞金差
H26年	29	田村 隆信	50,124,000	田中 信一郎	49,927,500	19万6500円
H27年	30	原田 幸哉	49,770,000	吉田 拓郎	48,153,000	161万7000円
H28年	31	魚谷 智之	53,349,000	田中 信一郎	53,021,500	32万7500円
H29年	32	前本 泰和	58,049,500	辻 栄蔵	57,778,000	27万1500円
H30年	33	新田 雄史	57,078,146	瓜生 正義	55,700,000	137万8146円
R1年	34	茅原 悠紀	63,661,000	原田 幸哉	61,138,000	252万3000円
R2年	35	前本 泰和	66,705,000	守田 俊介	64,003,000	270万2000円
R3年	36	西山 貴浩	67,586,532	中島 孝平	66,235,000	135万1532円
R4年	37	丸野 一樹	64,095,000	篠崎 仁志	62,640,000	145万5000円
R5年	38	菊地 孝平	69,268,000	吉田 拓郎	68,542,000	72万6000円
R6年	39	上條 暢嵩	74,217,000	山口 剛	72,898,333	131万8667円

表3 クイーンズクライマックス(賞金女王決定戦)ボーダー賞金額

日程	回	12位	賞金	13位	賞金	賞金差
H24年	1	宇野 弥生	22,575,000	永井 聖美	21,796,000	77万9000円
H25年	2	高橋 淳美	22,749,000	宇野 弥生	22,646,000	10万3000円
H26年	3	守屋 美穂	23,941,000	高橋 淳美	23,913,000	2万8000円
H27年	4	日高 逸子	23,290,000	中里 優子	23,173,000	11万7000円
H28年	5	山川 美由紀	24,023,390	魚谷 香織	23,771,000	25万2390円
H29年	6	田口 節子	24,389,200	日高 逸子	23,866,400	52万2800円
H30年	7	細川 裕子	26,006,051	大山 千広	25,900,000	10万6051円
R1年	8	香川 素子	27,518,333	大瀧 明日香	27,510,072	8261円
R2年	9	田口 節子	27,731,600	長嶋 万記	26,911,666	81万9934円
R3年	10	大山 千広	27,210,000	鎌倉 涼	26,810,739	39万9261円
R4年	11	堀之内 紀代子	27,151,500	落合 直子	27,135,000	1万6500円
R5年	12	大瀧 明日香	28,746,000	中谷 朋子	28,419,000	32万7000円
R6年	13	海野 ゆかり	29,892,000	田口 節子	29,684,190	20万7810円

*今年5位の守屋美穂が出場できないため、海野ゆかりは13位、田口節子は14位



白井英治、前田将太が GI準優F

11月14日の尼崎ダイヤモンドカップ準優12Rで前田将太と白井英治がFを切った。前田はコンマ10と記念ではほとんど見られない非常識なFだった。

2人とも1月26日までの常滑BCトーナメントまであっせんが入っている。罰則規定によりF休み明けから半年間のGI、GIIが出場停止となるので、記念戦線への復帰は来年9月以降。ただ、権利があればSGには出場できる。

罰則規定ありのFは前田が15年7月福岡周年準優、19年3月びわこGII準優に続いて3本目。白井は05年3月多摩川クラシック優勝戦、19年6月多摩川グラチャン準



白井英治

優、22年8月浜名湖メモリアル優勝戦に続く4本目。

昨年4月からFの罰則規定は出場停止期間がほぼ倍に強化されたが減少しているとは言えず、今年はずでに16本。昨年4月以降で合計22本となっている。

吉田裕平が史上5組目の 親子GI制覇

ボート界はこれまで100組以上の親子レーサーが誕生している。そのうちSG王者の父は上瀬和則、北川一成ら7人。GI王者の父・母は実に30人以上もいる。子供でSG王者になったのは服部幸男、今垣光太郎、仲口博崇、石野貴之とわずかに4人。GI王者も分かる範囲で10人と少ない。



そのうち、親子でGI王者は北川一成・幸典、服部正彦・幸男、今垣武志・光太郎、石野美好・貴之の4組だったが、11月14日の丸亀周年で吉田裕平がGI初優勝し5組目が誕生した。裕平は父・徳夫が優勝したのと同じ27歳でのGI初優勝になった。

今後、親子GI制覇の可能性があるとすれば金子萌、原田才一郎、石渡翔一郎、前田紗希あたりだろうか。ちなみに兄弟SG制覇は松尾泰宏・幸長と篠崎元志・仁志の2組が達成しているが、親子SG制覇はまだいない。

木村光宏が2500勝

11月4日の児島一般戦4日目9Rでまくりを決めた木村光宏が、史上45人目となるデビュー通算2500勝を達成した。

内訳はSG54勝、GI294勝、GII18勝、GIII238勝、一般戦1896勝。香川支部では山川美由紀、酒井忠義に続く3人目、70期では初。92年5月のデビューから32年6か月、8398走目での達成。

木村は00年代はSGの常連で08年地元丸亀ダービーで優出もある。GIは3回優勝。通算では優出286回で優勝は59回。生涯獲得賞金は10億円を突破している。

天野誠、小林甘寧が欠場 失格盤見落とし

Fを切ったにもかかわらず、それに気づかず3周走ってゴールしてしまった事象が立て続けに発生した。

11月22日の徳山一般戦2日目1Rでは広島134期の小林甘寧が6コースからコンマ01のFを切ったが、道中で一時5着の選手と接戦を演じて6番手でゴール。

11月25日の浜名湖一般戦3日目4Rではインの天野誠が3コースの丸尾義孝とともにコンマ01のF。丸尾はバック半ばで気づき、2マークを旋回せずにピットへ帰投したが、逃げていた天野は先頭のまま3周を走り切ってしまった。



天野誠

2人は失格欠場艇表示盤見落としの内規違反により、即刻帰郷処分が下された。褒賞懲戒審議会の対象事象でもあるので、2人とも数か月の出場停止処分も下される。

選手の負傷情報

山本梨菜 10月30日鳴門前検日における支部訓練中の1周2マークで失速し、後続艇が避け切れずに接触。左頬骨骨折、肺挫傷、脳挫傷の疑いで全治見込みは約1か月。

土性雅也 11月7日常滑2日目1Rの1周2マークで先行艇に接触して失速し、後続艇が避けられずに接触。肺挫傷、肋骨(ろっこつ)多発骨折、右骨大腿(だいたい)骨脱臼骨折で全治見込みは未定。

亀本勇樹 11月20日唐津一般戦初日2Rの1周1マークで失速し、後続艇が避け切れずに接触。恥骨、腸骨、座骨、臼蓋(きゅうがい)骨折で全治見込みは未定。

今月の引退選手

10月末から11月にかけては次の5選手が引退した。

- 吉本玲緒(広島45歳89期)
- 市川 猛(広島53歳73期)
- 山根大樹(広島51歳80期)

森 世里(滋賀36歳106期)
小寺拳人(福井31歳113期)

吉本玲緒さんは枝尾賢らと同期で89期のチャンプ。09年前期に5・39の自己最高勝率を残し1度だけA2級に昇格した。優出は17回あり、09年7月大村「夢の初優勝」と11年8月地元宮島のお盆戦で2回の優勝がある。GI出場はないがGIIは09年3月にびわこ秩父宮妃記念杯に出場し2勝をマークした。現役最後のレースは10月25日の地元宮島。

市川猛さんは兄・哲也の後を追って選手になり荒井輝年らと同期。勝率5点台は7期あったがA2級昇格はなく、19回の優出で優勝もないままの引退。現役最後のレースは10月25日の地元宮島。

山根大樹さんは父・強さんの後を追った2世レーサーで白井英治らと同期。勝率5点台は5期あったがA2級昇格はなく、優出も8回あったが優勝なしのままの引退。現役最後のレースは11月4日の丸亀。

森世里さんは岩瀬裕亮らと同期。A2級昇格はなかったものの、初優出だった21年3月平和島ヴィーナスでインの西橋奈未を破り2コース差で優勝。唯一の優出を見事優勝に結びつけた。和田操拓と結婚して2度の産休があったが、22年9月3日の鳴門を最後に復帰することなく、そのまま引退となった。

小寺拳人さんは椎名豊らと同期。20年12月の浜名湖で優出は1

回あったが、A2級昇格も優勝もないままの引退。現役最後のレースは10月30日の津。

135期水神祭第1号は宮崎心之介

9月にボートレーサー養成所を巣立った135期が続々とデビューしているが、水神祭の第1号は勝率トップだった埼玉の宮崎心之介。デビュー2節目だった11月21日の平和島一般戦最終日5Rで、6コースから見事なツケマイ勝ち。15走目での初勝利だった。

この平和島では3日目6Rでも2着に食い込んでおり、評判通りの高いレースセンスを早くも見せている。宮崎は2節を走り終えた時点で勝率も3・00をマーク。この数字をどこまで上げるのかも注目しておきたい。



今月の水神祭

- (初勝利)
- 10月29日 若林 麗(東京132期)
 - 11月13日 澁川 夏(大阪133期)
 - 11月14日 網代 良芽(兵庫134期)
 - 11月21日 宮崎心之介(埼玉135期)
- (初優勝)
- 10月30日 井本 昌也(山口120期)
 - 11月8日 山口 晃朋(静岡131期)
 - 11月11日 仲 航太(東京126期)
 - 11月21日 大賀龍之介(福岡121期)
- (GII初優勝)
- 11月24日 三浦 永理(静岡91期)
- (GI初優勝)
- 11月14日 吉田 裕平(愛知117期)
- (SG初優勝)
- 11月24日 河合 佑樹(静岡102期)

初勝利の水神祭は宮崎心之介以外にも132期以降から各1人ずつ。132期の若林麗は追加参戦だった桐生企業杯の最終日3Rで5コースからのまくり差し。3連単は8万円台の大穴を提供した。澁川夏は津一般戦の3日目5Rで6コースからのまくり差し。こちららも3連単はF艇がありながら8万円台の大穴になった。

網代良芽は澁川と同じ節の津4日目5Rで6コースからのまくり差し。この節は佐藤航が最終走をチルト2度で走っていたエンジンを引き当て、そのままチルト2度(3走目だけ3度)でレースに挑んでいたが、見事に正解を出した。未勝利選手は132期が6人、

133期が12人。2期目に入った134期は網代でまだ4人目の水神祭というさみしい状況。

初優勝は4人。井本昌也は19回目の優出だった芦屋で4コースからのまくり勝ち。すでにA1級に3期も昇格している実力者だけに、待ちに待った初優勝。佐々木完太らの120期では9人目の優勝者になった。

山口晃朋は大村でイン竹田辰也のFによる繰り上がりではあったが、今年も福岡泉水に続く2人目の初優出初優勝の快挙。131期では石本裕武に続く2人目の優勝者だ。

2回目の優出だった仲航太はフレッシュルキーに指名されている平和島で6コースから最内を差し、2マーク小回りでの大逆転勝ち。大澤風葵らがいる126期では8人目の優勝者になった。仲は優勝した次節も同じ平和島を走り、見事にその同じ優勝エンジンを引いて連続優出。今度は3号艇



若林麗

の3コースから1マークを握って攻めたがインにはじかれて6着と敗れた。
実はその平和島で仲航太の3コース攻めをすぐ隣の4コースから差して初優勝を飾ったのが7回目の優出だった大賀龍之介。高橋竜矢らの121期では9人目の優勝者。
下関のレディースチャレンジカップを制した三浦永理の女子4大競走は第1回の大村クイーンズクライマックス以来、12年ぶり得意



三浦永理



井本昌也

外なことにまだ2冠目。というわけでGIIは初優勝。
河合佑樹はSG8回目の出場にして初優出初優勝となったが、実は静岡支部はこのパターンが非常に多く、早川行男、服部幸男、菊地孝平、坪井康晴、笠原亮、深谷知博に続く7人目のSG初優出初優勝だった。

年間タイトル争い

最高勝率は峰竜太、最優秀新人は藤原碧生が濃厚な状況。最多勝利はぶつちぎっていた中辻崇人が前期F2で年内の出走がなく、2位の松村敏が11勝差まで迫ってきたが、11月25日時点でその松村もなぜか年内のあつせんが1節しか入っておらず、松村に追加あつせんがなければ中辻の逃げ切りが濃厚。
女子MVPは遠藤エミがリード



藤原碧生

表4 年間勝率

	優出	優勝
1 峰 竜太	8.31	11 3
2 中辻 崇人	8.02	18 8
3 池田 浩二	8.01	14 4
4 毒島 誠	7.87	10 4
5 茅原 悠紀	7.82	12 5

表5 女子年間勝率

	優出	優勝
1 三浦 永理	7.55	19 5
2 浜田 亜理沙	7.43	12 1
3 守屋 美穂	7.26	11 4
4 遠藤 エミ	7.15	10 4
5 田口 節子	7.11	9 1

表6 年間最多勝利

	優出	優勝
1 中辻 崇人	120	18 8
2 松村 敏	109	21 4
3 深川 真二	101	14 6
4 三浦 永理	96	19 5
5 上野真之介	95	16 5
5 河合 佑樹	95	16 5
5 前田 篤哉	95	13 4

表7 新人年間勝率

	優出	優勝
1 藤原 碧生	6.77	7 4
2 飛田 江己	6.57	9 2
3 中野 仁照	6.33	5 1
4 藤田 俊祐	6.24	3 0
5 西岡 顕心	6.14	4 1

11月24日現在

来年3月に若松で開催されるクラシックの出場権争いもいよいよ大詰めを迎えるが、やはり今回は過去にないハイレベルな争い。来年2月の地区ダービー覇者6人を加算すると、一般戦V5以上がすでに58人もいる。
12月はGI4開催に加えてGPシリーズ戦もあるうえ、GP出場は池田浩二、平本真之、佐藤翼は

クラシック出場権争い

しているが、三浦永理がクイーンズクライマックスを優勝して賞金で上回れば逆転の可能性が出てくるかもしれない。

表10 女子獲得賞金ランキング

順位	選手名	獲得賞金額
1	遠藤 エミ	57,394,000
2	三浦 永理	45,969,000
3	浜田 亜理沙	41,936,166
4	渡邊 優美	39,381,866
5	守屋 美穂	36,105,000
6	細川 裕子	34,489,999
7	平高 智菜	34,391,500
8	平山 智加	33,630,866
9	西橋 奈未	32,884,000
10	宇野 弥生	32,273,932
11	藤原 菜希	31,079,162
12	川野 芽唯	30,831,982
13	海野 ゆかり	29,892,000
14	田口 節子	29,684,190
15	寺田 千恵	29,337,428
16	長嶋 万記	28,784,000
17	平田 さやか	27,583,930
18	松尾 夏海	25,633,000
19	日高 逸子	25,418,848
20	實森 美祐	25,355,000
21	大瀧 明日香	25,064,000
22	清笠 翔子	24,932,000
23	向井 美鈴	24,666,742
24	山川 美由紀	24,328,000
25	岩崎 芳美	24,133,260
26	三川 素子	24,044,000
27	落合 直子	23,904,029
28	櫻本 あゆみ	23,003,066
29	中川 りな	22,749,678
30	廣中 智紗衣	22,597,000
31	勝浦 真帆	21,895,000
32	今井 裕梨	21,597,094
33	関野 文	21,308,666
34	中谷 朋子	21,050,000
35	深川 麻奈美	21,042,999
36	高田 ひかる	20,779,000
37	金田 幸子	20,557,000
38	蜂須 瑞生	20,523,000
39	樋口 由加里	20,344,162
40	平川 香織	20,122,000
41	津田 裕絵	19,960,696
42	角 ひとみ	19,834,696
43	喜井つかさ	19,752,532
44	佐々木裕美	19,719,332
45	川井 萌	19,543,833
46	魚谷 香織	19,106,000
47	小野 生奈	18,528,732
48	山口 真喜子	18,438,000
49	中澤 宏奈	18,335,962
50	刑部 亜里紗	18,184,933
51	前原 哉	17,788,466
52	滝川 真由子	17,348,066
53	黒澤めぐみ	17,248,696
54	前田 紗希	17,178,466
55	堀之内紀代子	17,149,000
56	大童 千秋	17,073,024
57	西岡 成美	16,809,000
58	中田 夕貴	16,755,732
59	土屋 千明	16,729,530
60	松本 晶恵	16,634,866
61	今井 美亜	16,607,000
62	大豆 生田蒼	16,519,696
63	山下 夏鈴	16,478,834
64	藤下 里香	16,455,696
65	片岡 恵里	16,442,190
66	小野 桜	16,431,696
67	土屋 美沙希	16,318,500
68	鎌倉 涼	16,279,799
69	水野 望美	15,926,466
70	後藤 美翼	15,842,696

表9 獲得賞金ランキング

順位	選手名	獲得賞金額
1	馬場 貴也	148,701,833
2	毒島 誠	126,213,033
3	桐生 順平	118,277,333
4	茅原 悠紀	109,653,333
5	峰 竜太	104,026,333
6	池田 浩二	102,463,000
7	菊地 孝平	101,851,000
8	平本 真之	101,463,466
9	宮地 元輝	95,903,333
10	土屋 智則	95,881,333
11	定松 勇樹	95,463,000
12	関 浩哉	93,076,760
13	河合 佑樹	85,515,000
14	松井 繁	82,950,000
15	西山 貴浩	80,604,333
16	佐藤 翼	78,479,000
17	瓜生 正義	76,617,999
18	上條 暢嵩	74,217,000
19	山口 剛	72,898,333
20	丸野 一樹	70,104,833
21	寺田 祥	69,653,533
22	森高 一真	67,845,266
23	吉川 元浩	67,758,666
24	前田 将太	65,700,333
25	片岡 雅裕	64,533,666
26	吉田 拓郎	62,761,733
27	島村 隆幸	62,035,000
28	篠崎 元志	61,328,532
29	深谷 知博	60,913,000
30	白井 英治	60,351,500
31	新開 航	58,947,000
32	磯部 誠	57,965,333
33	上野 真之介	57,397,666
34	遠藤 エミ	57,394,000
35	宮之原 輝紀	55,088,466
36	齊藤 仁	54,866,070
37	山崎 郡	54,344,866
38	椎名 豊	54,280,000
39	石渡 鉄兵	53,811,006
40	湯川 浩司	53,492,500
41	坪井 康晴	52,781,000
42	赤岩 善生	52,189,519
43	西村 拓也	51,801,000
44	濱野 吾吾	51,179,866
45	石野 貴之	50,949,466
46	吉田 裕平	50,914,000
47	井口 佳典	47,843,333
48	池永 太	47,786,000
49	中島 孝平	47,750,426
50	長田 頼宗	47,412,500
51	三浦 永理	45,969,000
52	中田 竜太	45,920,000
53	山田 康二	45,839,866
54	原田 幸哉	45,265,333
55	桑原 悠	44,920,466
56	柳生 泰二	44,883,999
57	豊田 健士郎	44,816,000
58	藤原 啓史朗	44,689,000
59	稲田 浩二	44,143,418
60	中澤 和志	43,965,533
61	仲谷 颯仁	43,789,799
62	海野 康志郎	43,757,333
63	新田 雄史	43,524,000
64	佐藤 隆太郎	43,073,666
65	船岡 洋一郎	42,545,000
66	杉山 正樹	42,205,000
67	末永 和也	42,152,000
68	徳増 秀樹	42,046,333
69	深井 利寿	41,977,520
70	浜田 亜理沙	41,936,166

表8 クラシック出場権争い

順位	選手名	支部	勝率	記念V	一般V
前年V	毒島 誠	群馬	7.87	2	2
	茅原 悠紀	岡山	7.82	2	3
	馬場 貴也	滋賀	7.40	2	2
	桐生 順平	埼玉	7.72	2	1
	河合 佑樹	静岡	7.45	1	4
	定松 勇樹	佐賀	7.08	1	2
	土屋 智則	群馬	7.06	1	1
	関 浩哉	群馬	7.42	2	2
	菊地 孝平	静岡	7.32	2	2
	遠藤 エミ	滋賀	7.15	1	3
地区選V6名					
	丸野 一樹	滋賀	7.01	3	0
	西山 貴浩	福岡	7.58	2	2
	吉田 拓郎	岡山	7.11	2	3
	湯川 浩司	大阪	6.82	2	2
	島村 隆幸	徳島	7.19	1	5
	宮地 元輝	佐賀	7.23	1	4
	上條 暢嵩	大阪	7.71	1	3
	吉田 裕平	愛知	7.15	1	3
	新開 航	福岡	6.84	1	2
	入海 馨	岡山	6.83	1	2
	原田 幸哉	長崎	6.74	1	2
	峰 竜太	佐賀	8.31	1	1
	松井 繁	大阪	7.39	1	1
	瓜生 正義	福岡	7.29	1	1
	深井 利寿	滋賀	6.63	1	1
	石渡 鉄兵	東京	6.41	1	1
	深谷 知博	静岡	6.80	1	0
	新田 雄史	三重	7.03	1	3
	片橋 幸貴	滋賀	6.53	1	2
	下條 雄太郎	長崎	6.97	1	1
	奈須 啓太	福岡	6.24	1	1
38	中辻 崇人	福岡	8.02	0	8
39	菅 章哉	徳島	6.82	0	8
40	豊田 健士郎	三重	6.78	0	8
41	佐藤 隆太郎	東京	7.16	0	7
42	船岡 洋一郎	広島	6.99	0	7
43	深川 真二	佐賀	7.56	0	6
44	松田 大志郎	福岡	7.13	0	6
45	井上 忠彦	大阪	7.02	0	6
46	吉田 俊彦	兵庫	6.32	0	6
47	上野 真之介	佐賀	7.71	0	5
48	三浦 永理	静岡	7.55	0	5
49	吉川 元浩	兵庫	7.47	0	5
50	永田 啓二	福岡	7.44	0	5
51	守田 俊介	滋賀	7.40	0	5
52	篠崎 元志	福岡	7.19	0	5
53	池永 太	福岡	7.08	0	5
54	若林 将	東京	6.98	0	5
55	今泉 友吾	東京	6.97	0	5
56	佐々木 康幸	静岡	6.89	0	5
57	萩原 秀人	福井	6.85	0	5
58	渡邊 雄朗	東京	6.77	0	5
59	山田 康二	佐賀	7.48	0	4
60	松村 敏	福岡	7.47	0	4
61	海野 康志郎	山口	7.25	0	4
62	久田 敏之	群馬	7.25	0	4
63	笠原 亮	静岡	6.99	0	4
64	岩瀬 裕亮	愛知	6.98	0	4
65	前田 篤哉	愛知	6.91	0	4
66	古澤 光紀	福岡	6.79	0	4
67	黒野 元基	愛知	6.78	0	4
68	藤原 碧生	岡山	6.77	0	4
69	桑原 悠	長崎	6.77	0	4
70	島田 賢人	埼玉	6.76	0	4

まだ権利がなく、GP優出で権利獲得の可能性も十分ある。すなわちGI以上の開催だけで最大8人が新たに権利を獲得する可能性があるうえ、V5の12人の中からV6に到達する選手もきつと出てく

るはず。地区ダービーも含めた記念覇者のうち、すでに権利がある選手の重複を半数の7人と仮定しても、V6以上で52人を超えてしまう。F休みで権利喪失の選手が大量発

生しない限り、やはり今回はV5での出場は難しそう。ボーダーはV6の勝率勝負になる可能性が相当に高そうだ。地元福岡勢は西山貴浩、瓜生正義、新開航、奈須啓太の4人が記

念制覇で当確。一般戦組は中辻崇人がV8、松田大志郎がV6で最低6人はほぼ確保。V5は永田啓二、篠崎元志、池永太の3人だが、篠崎と池永は年内に一般戦のあっせんがないのは痛い。